

「気配り・目配り・思いやり」

人が生活していくうえで、自分以外の他者に対して「気配り・目配り・思いやり」をもった行動をとるのは大切なことです。

使ったものを元に戻すのは当たり前ですが、そのうえで次に使用する人が使用しやすいように収納するということを考える。

たとえば、使いやすいように種類別に収納して片づける、取り出しやすい収納を考える、といったことも気配りなのではないかと考えます。

これらは気配りの一つですし、仕事をしていくうえでも大切な行動だと思います。

別の言い方をすると、次に使う人のことを考えた「思いやり」の行動だとも言えるのではないのでしょうか。生活していくうえで、いろいろなところでみんながこの考え方をもちいるとスムーズになることがたくさんあります。

たとえば、車の運転でもそうだと思います。

先を急ぎたいからといって車間を空けていなかったらどうでしょうか。それが横断歩道の前後であれば、歩行者の安全を脅かすことにもなりかねません。

医療の世界では、患者さんを中心にたくさんの医療従事者が協働して仕事をしています。

医療従事者だけでなく患者さんも含めてそのすべての人たちが、お互いに「気配り・目配り・思いやり」をもっていることは大切なことだと思います。

看護師として患者さんに注意・関心を向けた「気配り・目配り・思いやり」がなければ、患者さんの変化に気がつくことができないかもしれません。

看護師として仕事をしていくうえで、「気配り・目配り・思いやり」を大切な行動規範の一つとして考えています。職場環境・職場風土の中で「お互い様とおかげ様」、「気配り・目配り・思いやり」を大切に考えた看護実践を行っていきたいと思っています。